

村松 功一さん

<受験暦>

H26年	1次試験合格	2次試験不合格	大手予備校通信
H27年	2次試験不合格		自宅学習
H28年	1次試験合格	2次試験不合格	自宅学習
H29年	2次試験合格		MMC通学

<合格に繋がったと感じる指導>

H29年は、MMCの通学で講師の方々から多くの指導を直接頂き、2次試験に対する認識が大きく変わりました。その事が、合格に繋がった様に思います。

以下に紹介します。

①本試験では与件を分析してはいけない。

以前の私は、出題者が求める100点の解答を目指し、80分の試験の中で、与件分析に多くの時間を費やしていました。しかし、60点で合格する80分のテストでは、それは求められていなかったのです。

②どのような解答にするかを試験前に決めておくこと。

以前の私は、毎年、異なる事例が出題され、個別の解答を迫られていると考えていました。しかし、実は、毎年ほぼ同じことを書けばよかったです。事例Ⅰの人事問題であれば成果主義の導入、事例Ⅲの作業問題であれば、標準化・マニュアル化という具合です。それらの定番のキーワードを文書化し準備しておくだけで、試験前に、解答の半分程度は埋まっている状態となりました。この結果、与件を分析しなくても、50点程度は得点できる状態になれたと思います。

③準備しておく対策キーワードは、実は多くないこと。

以前の私は、各事例ごとに可能な限り多くのキーワードを書き出し、あらゆる問題に対応できるように備えていました。しかし、本試験では、重要なキーワードを優先して使うことが大切だったのです。MMCの学習ガイドブックには、対策キーワード集が記載されています。それらのキーワードは、過去の本試験で繰り返し登場した厳選ワードとの事です。私は、そのキーワード集を確実に覚えることに集中しました。その上で、事例Ⅰの出題者は、成果主義が好きという教えもありましたので、人事問題が出たら、成果主義の導入を必ず書くと決めました。

④本番では新しいことはしない。まっすぐ真ん中を歩いていけば、周囲の人は、自然と反れていく。

以前の私は、他者と差別化した解答を書かなくては合格出来ないと考えていました。しかし、実際には、今まで見たことのない問題が出題されたとしても、落ち着いて、過去問と同じ

様に解答していくことが大切だったのです。今思うと、その様な冷静さを試す試験であった様にも思います。

<学習方法について>

事例Ⅰ～Ⅳに対して、それぞれ解答作成手順書をつくりました。MMCの過去問の模範解答を完成品とし、与件の読み方～解答記述までの具体的な作業を書き出しました。プロセスで、滞留が発生したり非効率と思われる箇所については、改善を繰り返し、手順書のブラッシュアップを行いました。滞留については、私の場合、どの過去問を解いても、与件から解答のヒントを抽出するプロセスでつまづくことが多くありました。この件に対して、対策を充分検討し、最終的に、設問で使われている言葉と同じ言葉が登場する箇所を与件内に見つけ、その言葉の周辺とその段落内を中心に検索することとしました。以前の私は、与件全体を無作為に検索していましたが、周辺と段落内にしぼって深く読み込むことでヒントに気付けると分かりました。効率化については、当初は与件を読み SWOT 別に太い蛍光ペンで塗り分けていたのを、青と赤の細いペンを使い、波線と直線を使い分けて下線を引くだけとしました。そして、太い蛍光ペンは、設問ごとに色分けして解答要素を紐付けする際に使いました。こうする事で、SWOT分析後の与件が着色だらけにならずに見易くなったこと、さらに、設問ごとに蛍光色で強調したことで、解答を書く際に、与件を一目みて設問ごとの要素を識別し易くなりました。

<終わりに>

自分とMMCを信じてあきらめずに学習継続することが、何より大切だと思えます。私は、試験勉強中に「この方法で勉強していて今年は合格出来るのかな？」と自分も他人も信じられない状況になり、度々士気を低下させていました。しかし、それは取り越し苦労でした。MMCの指導は、個別のアドバイスがあり、弱点を明確に指摘して頂けます。物事を追求する癖がある私に対しては、追及しすぎずに逃げることも大事だと指導して下さいました。実際の本試験で、事例Ⅳの計算問題でその言葉を思い出し、1問だけ空欄で提出しましたが、それでも合格出来ました。追求していたら、時間を浪費し不合格だったかもしれません。MMCを信じ、言われたことを愚直に実行していくこと、そして、自分を信じてあきらめないこと。こうする事で、自然と合格にたどりつけると思えます。今、この記事を読んで下さっている受験生の皆様が合格できることを、心より願っています。がんばって下さい。

<謝辞>

的確なご指導により合格へと導いて下さった、MMC講師の皆様にご感謝を申し上げます。そして、受験勉強を何年にも渡り支えてくれた妻に、心より感謝を申し上げます。本当に、ありがとうございました。